

びわこ学院大学 令和五年度 学校推薦型選抜（公募推薦）「小論文問題」

次の文章を読み、あなたの考えたことを六〇〇字程度で述べなさい。

この「できるだけ単純に考える」が、科学的な思考法のいちばん優れたところかもしれません。ここでは「ものごとを単純な要素に分けて考える」と「オッカムの剃刀」のふたつに分けて説明していきます。なんやそのオッカムつちゅうのは、と思われられるかもしれませんが、それは後ほど。まず前者からいきます。

研究に限らず、世の中のおおよそ複雑です。いや、少なくとも複雑そうに見えます。しかし、もつと細かく見てみるといくつもの要素に分けられることがほとんどです。なかにはそういうことができる人もいるかもしれませんが、人間の頭というのは、いくつものことをいっぺんに考えられるようにはできていません。だから、できるだけ小さく分けて、それぞれについてしっかり考えてみるのです。無人島に漂着したロビンソン・クルーソーも同じようなことをしていました。

毎日同じことを考えて悶々としていたロビンソン・クルーソーは、いまの境遇が最悪のものではない、自分を励まそうと、お金の貸借表のような、悪い点と良い点、あるいは、不運だったことと幸運だったことの表をこしらえます。

不運 恐ろしい無人島に流されて助けられる希望がまったくない。

幸運 しかし私は、他の仲間たちのように溺れずに生きている。

不運 私には衣服がない。

幸運 しかし、暖かいので、衣服がなくとも着なくて済ませられる。

など、6つの項目について書き出して、完全に惨めではなくて、よい面もあると結論づけるのです。「ちやちやつと考えるのではなく要素に分けて考えることにより、初めてよく理解できる、あるいは、納得できるようになったわけです。

そんなの簡単だと思えるかもしれませんが、これが意外と難しい。研究を始めたての人など、複数のことを一気に考えようとして、わけがわからなくなることがしょっちゅうです。そうならないように、分けられることは分けて考えること。そして、そのひとつずつに重みをつけて判断すること。そうするだけで、さまざまなことがずいぶんとスッキリするはず。もちろん、それぞれがちやちやにならないように、ロビンソン・クルーソーのように書き出してみたほうがわかりやすくなります。

もうひとつは「オッカムの剃刀」です。これは、ものごとではできるだけ単純に考えるべき、という教えです。言い換えると、ある事柄を説明する、あるいは解釈するときには、いちばん単純な理屈でいきましょうということ。え、それだと間違えるかもしれないって？ それは気にしなくてもかまいません。

くり返しになりますが、極端な言い方をすれば、科学というのは、現時点において正しそうな仮説、にすぎないのです。それならば、とりあえずいちばん単純なやつにしておきましょう、ということ。どうしてかって？ だって、そのほうがわかりやすいやないですか。ちやちや考えるのはムダです。

もし、その簡単な説明だとしてもおかしい、ということになったら、それはそのとき。もつと複雑な説明を取り入れればいいのです。逆に言うと、そういった柔軟性を持った上で、とりあえずはいちばんシンプルな考え方をしておきましょうということ。です。

イングランドのオッカムという村に住んでいたウィリアムという神学者によって14世紀に唱えられた、「必要以上の仮定をおくべきではない」という考えなので、オッカムの剃刀と呼ばれています。他にもいろいろなバージョンがあって、ニュートンは「現象を説明するのに正しくて十分な原因がわかれば、それ以上は考えなくてよい」と語っています。

アインシュタイン版は「何ごともできるだけ単純にすべきだ、ただし単純すぎないように」です。何ごとも過ぎたるは及ばざるがごとしというところまで入れられていて、含蓄に富んでおり、とつてもええ感じ。です。

（仲野徹『考える、書く、伝える 生きぬくための科学的思考法』講談社）